



より質の高い医療の提供を目指し医療センターに



医療センターキャラクター「みみたくん」

手術支援ロボットを導入しました



手術支援ロボットは、術者が複数のロボットアームを遠隔操作する医療用ロボットです。人の指先以上の繊細な動きが可能で、素早く正確な手術を実現します。現在行われている腹腔鏡手術などの内視鏡下手術を支援し、より精度の高い手術の提供が可能となります。

ロボット支援下手術の特徴

◆ 身体への負担が少ない

手術では、腹部に約1cmの穴を5～6カ所開けます。傷口はとても小さく、また穴を開ける箇所も少ないため、出血が抑えられ、術後の回復も早く患者さんの負担を軽減します。

◆ 鮮明な3D画像

術者は、3D内視鏡カメラにより「三次元の立体的な画像」をモニターで見ることができ、術中の視認性が向上します。

◆ 精密な動きを再現

手ぶれ防止機能と、自由に曲がる多関節鉗子による高度な操作性と可動域により、腹腔鏡手術では困難とされている手技も行うことが可能です。

ロボット支援下手術適用例

対象疾患

前立腺がん

受診方法

地域の医療機関を受診し、紹介状を持参の上、医療センターにお越しください。医師が症状を確認の上、ロボット支援下手術の可否を判断します。



詳細は医療センターホームページをご確認ください▶

問い合わせ…医療センター総合相談室・がん相談支援センター ☎048-287-2525(代表) FAX048-280-2525

内閣官房が全国を巡業して開催する地方巡回展。関東地方での開催は初

領土・主権展示館 地方巡回展 in 首都圏 川口会場

日本の「領土・主権」を考える

～北方領土・竹島・尖閣諸島パネル展～

日時 10月9日(祝)～15日(日) 11:00～19:00 (初日は14:00開場)

場所 リリア1階 展示ホール 料金 無料

特別出展
・島根県竹島対策室 ・石垣市
・独立行政法人 北方領土問題対策協会
北方領土返還要求運動埼玉県民会議



◀詳細は「領土・主権展示館」ホームページをご確認ください。

日本固有の領土でありながら、主権の一部を事実上行使できない「北方領土」と「竹島」。また、周辺海域の情勢が複雑化している「尖閣諸島」。これらを含む島々の歴史を振り返りながら、日本が領有する根拠、他国・地域の主張や行動、日本政府の対応や考え方を分かりやすく学ぶことができる展示会です。



～過去の地方巡回展の開催風景～



「巨大領土パズル」をはじめ、子どもも楽しめるコンテンツも多数

同時開催

近代日本の夜明けと離島の編入
—明治日本のフロンティア—



史跡「北大東島燗釜山遺跡」 写真提供:北大東村教育委員会

問い合わせ…内閣官房 領土・主権対策企画調整室 ☎03-4332-3453